

<別紙：前環境中期計画の活動項目ごとの振り返りと今後>

【統合指標】

当社は2014年度より、企業活動で利用している自然資本による負荷と自然資本にリターンしている貢献価値を経済的価値に換算して定量化する手法によって「見える化」を行い、統合指標（SEKISUI 環境サステナブルインデックス）の算出を開始しました。

自然資本の利用100に対して2014年度から2016年度の3年間でリターンは11.9ポイント増加し、76.9%となりました。環境貢献製品による貢献度の蓄積は着実に拡大しています。

次図は、自然資本の利用と自然資本へのリターンの2016年度内訳を表していますが、負荷低減による影響は生産量原単位の悪化により、▲1.0%となり、リターンがありませんでした。

今後は環境貢献製品の市場拡大と創出をはじめとする環境の取組みを進めるとともに、効率改善、意識変革による推進力を向上させ、さらなるリターンの拡大を推進していきます。

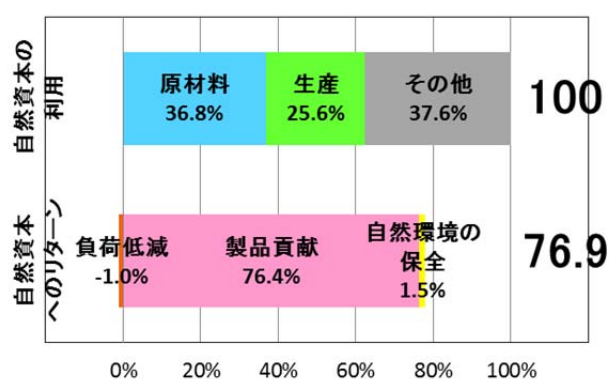


図 統合指標「SEKISUI 環境サステナブルインデックス」の2016年度実績の内訳

【環境貢献製品の市場拡大と創出】

- ① 実績：売上高比率 45.2%で目標未達成
新規登録件数 45 件（総登録件数は 125 件）

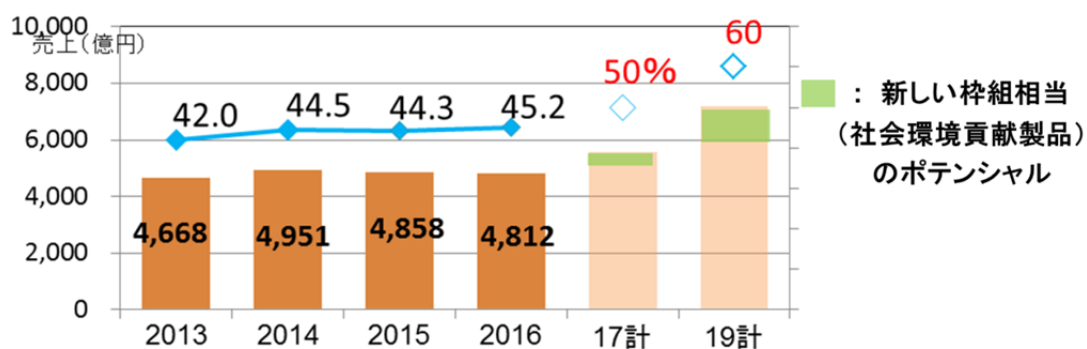


図 環境貢献製品売上高の推移、計画

- ② 要因：太陽光発電システム搭載住宅の売上減少、海外管路更生事業の見直しに起因
③ 今後：<目標> 環境貢献製品売上高比率 60%以上、新規登録 30 件以上
→ 社会背景を受けた環境貢献製品の定義見直し、製品創出により、貢献を拡大

<2016年度新規登録の環境貢献製品事例>

◆未利用熱回収システム「エスロヒート地中熱」<GHG削減（省エネ）>



年間を通して安定した温度である地下に採熱管（地中熱交換機）を設置し、地中の熱エネルギーを回収して活用するシステム。新開発の高採熱管により、地下1~10mの浅層部に設置して熱を取り出す「水平埋設型」が加わりました。

◆「クウチョウハイパーCH」<GHG削減（LCA）、廃棄物削減>



空調配管用高性能ポリエチレン管「クウチョウハイパーCH」は、冷温水用途に最適のポリエチレン管です。この用途で従来使用されてきた炭素鋼鋼管と比べて軽量かつ耐久性・耐食性に優れた樹脂管であり、ライフサイクルでのCO₂排出量の削減が可能になります。

◆耐薬品性水溶性フィルム「Advasol」<廃棄物削減>



プール殺菌剤や水処理薬品などを計量不要で取り扱いが容易になるようにする高い耐薬品性を有する個包装のフィルム。水溶性のフィルムであり、プールなどに投入後は溶解するため、廃棄物となる個包装をゼロにできます。

◆フィルム型リチウムイオンバッテリー<GHG削減（省エネ）>



独自技術により、リチウム電池のフィルム化を実現。薄くて軽量、大容量、高安全性の特徴を有し、住宅定置用途での販売を開始しています。太陽光などの再生可能エネルギーの有効活用と災害時にも安心な生活を提供できます。

【GHG 排出量／エネルギー使用量削減】

- ① 実績：GHG 排出量 総量 0.3%削減で目標達成
GHG 生産量原単位 1.8%削減で目標未達成

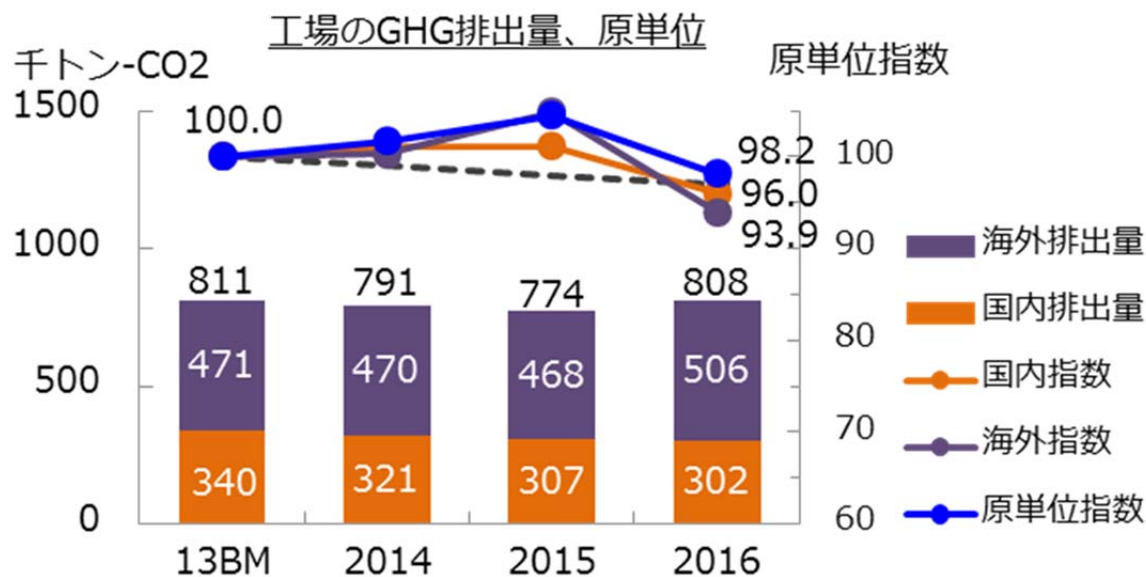


図 生産事業所の GHG 排出量の推移

- ② 要因：生産量に比例して増加、実質的な原単位削減不十分
- ③ 今後：＜目標＞ 事業活動全体の GHG 排出量：2013 年度 BM で 6%削減
→更新設備案件の抽出と計画的な投資の実行を推進
長期を見据えた大幅削減施策の検討

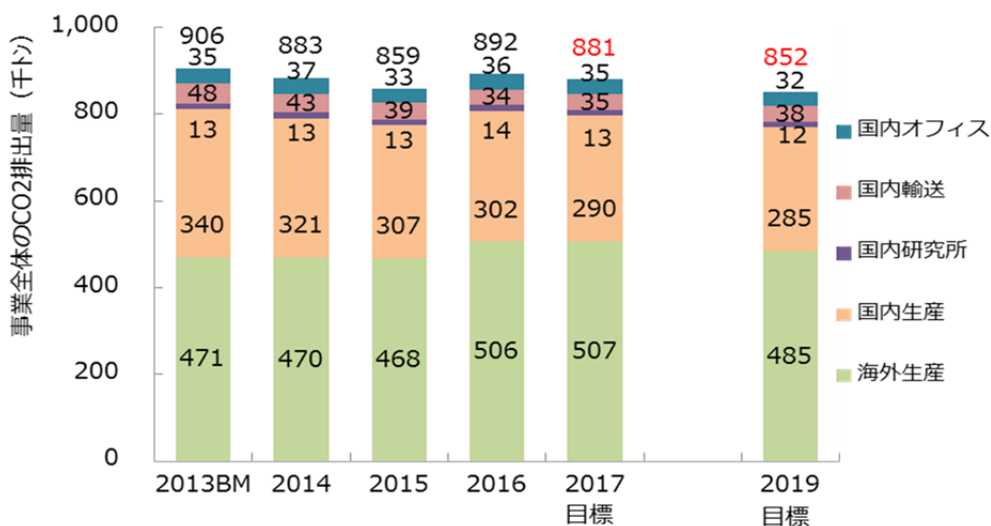


図 今中期計画での GHG 削減イメージ図 (2017 年 6 月時点)

【廃棄物削減】

① 実績：廃棄物発生量生産量原単位 7.5%増加 で目標未達成

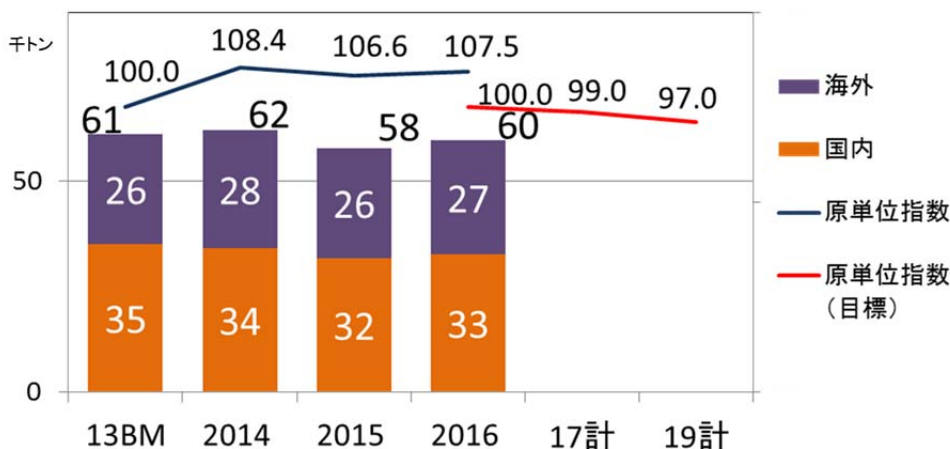


図 廃棄物排出量の推移と計画

② 要因：全体傾向：生産量減少の影響

国内：住宅C 工場生産比率増、環境 LLC 生産再編 が増加要因に

海外：ゼロエミ拡が削減を後押し

③ 今後：＜目標＞廃棄物発生量 3% t / t

国内：廃棄物会議の拡充により成果拡大

海外：ゼロエミ活動連携

【SEKISUI 環境ウィーク 2016（第4回）】

① 実績：従業員参加率 70%で目標未達成、事業所参加率 98%

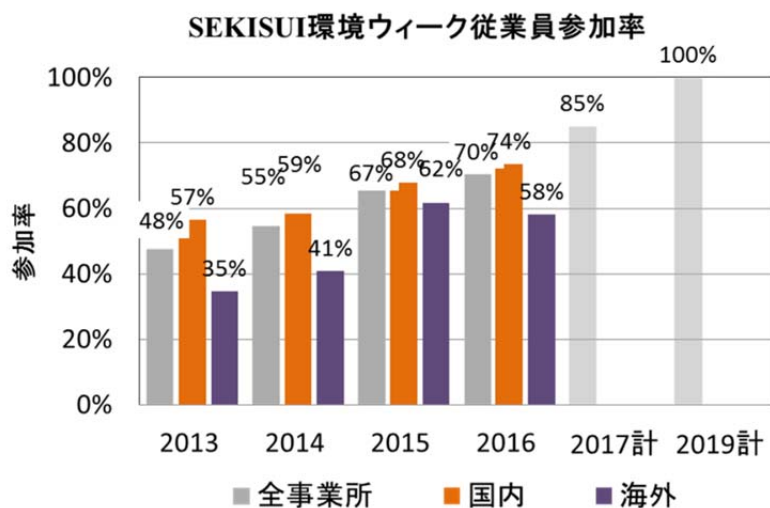


図 従業員参加率の推移、計画

② 要因：個人活動の推奨不十分

③ 今後：＜目標＞事業所参加率 100%、従業員参加率 100%

→ 100%従業員参加の実施方法や成功事例の共有化

2016年度のSEKISUI環境ウィークシンボルイベント

2016年度のシンボルイベントは、アメリカのセントラルパークにて外来種駆除活動を実施しました（右写真）。当社の社長および経営幹部、米州の現地法人の従業員とその家族で7ヶ国約80名参加となりました。

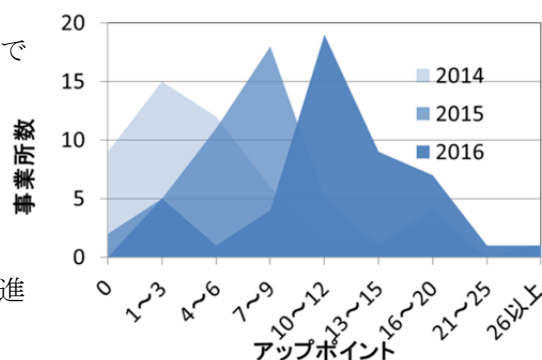


2017年度の「SEKISUI環境ウィーク」においては、創立70周年記念のグループ内イベントを兼ね、8月上旬に「世界こどもエコサミット」をシンボルイベントとして開催予定です。

【事業所内緑地の質向上】

- ① 実績：土地利用通信簿[®]による評価で13.4ポイントアップで目標達成。（右表ご参照）
- ② 要因：事業所ごとのポテンシャル把握
- ③ 今後：＜目標＞土地利用通信簿で評価して「5ポイントアップ」（2016BM）

事業所毎の特徴、ポテンシャルを生かした緑地の質向上を推進



つる性植物によるグリーンカーテン
(壁面緑化による緑地の創出)



屋上を活用したビオトープ
(立体的屋上緑化による緑地の創出)

【環境教育】

- ① 実績：教育体制の整備：「関心」「感激」「感謝」の3段階であるべき環境人材像に段階的に到達できるよう教育体系を整備

基礎知識の向上：“生物多様性”の言葉の理解度が、抽出平均で58→90%

eラーニング等研修プログラム参加、受講率：80%

- ② 今後：＜目標＞人材指標で20ポイントアップ（2017年度BM）・・・実践に向けての変革を支援

これまでは、教育プログラムごとに理解度、教育受講率をチェックし、フィードバックは事業所単位に留まっていた。今後は、成長の把握と個人フィードバックを可能とする6つの領域からなる人材指標を作成し、各々の領域での理解度、実践度を向上させる自己研鑽も促進し、実践に向けての変革を強化していきたいと考えています。

以上